

教育・生涯学習に関する世論調査

補足説明資料

平成28年2月

生涯学習政策局政策課



文部科学省

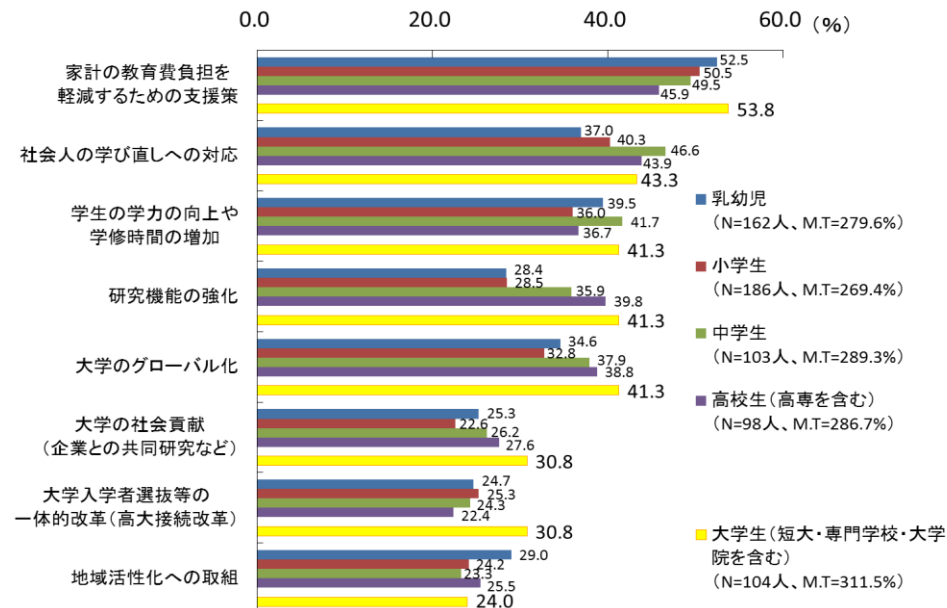
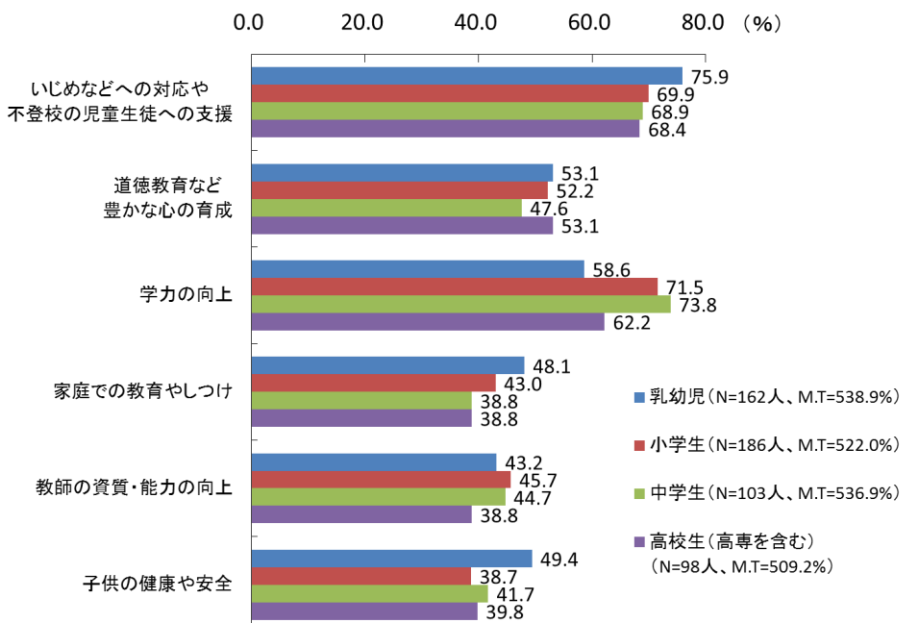
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

1. 教育に関するニュース・話題への関心

- 小学校就学前～高校の教育で関心のあるテーマ(問1更問1)について、高校生までの子供がいる人に限れば、
 ・乳幼児の子供がいる人:「いじめなどの対応や不登校の児童生徒への支援」「学力の向上」「豊かな心の育成」
 ・小・中学生の子供がいる人:「学力の向上」「いじめなどの対応や不登校の児童生徒への支援」「豊かな心の育成」
 ・高校生の子供がいる人:「いじめなどの対応や不登校の児童生徒への支援」「学力の向上」「豊かな心の育成」
 の順で関心が高くなっている。【1-1】
- 大学や大学院、専門学校の教育・研究において関心のあるテーマ(問1更問2)について、大学生(短大、専門学校、大学院を含む)の子供がいる人に限れば、「家計の教育費負担を軽減するための支援策」「社会人の学び直しへの対応」「学生の学力の向上や学修時間の増加」の順に高い。また、高校生以下の子供がいる人に限定した場合も、同様の傾向が見られる。【1-2】

【1-1】小学校就学前～高校の教育で関心のあるテーマ

【1-2】大学や大学院、専門学校の教育・研究において関心のあるテーマ



※問1更問1では、問1で教育についてのニュースや話題に「関心がある」「ある程度関心がある」と答えた者に、複数回答。

※問1更問1の結果を、乳幼児、小学生、中学生、高校生(高専含む)の子供の有無別に集計。

※回答割合が低かったものなど、一部の選択肢の結果は省略している。

※問1更問2では、問1で教育についてのニュースや話題に「関心がある」「ある程度関心がある」と答えた者に、複数回答。

※問1更問2の結果を、乳幼児、小学生、中学生、高校生(高専を含む)、大学生(短大・専門学校・大学院を含む)の子供の有無別に集計。

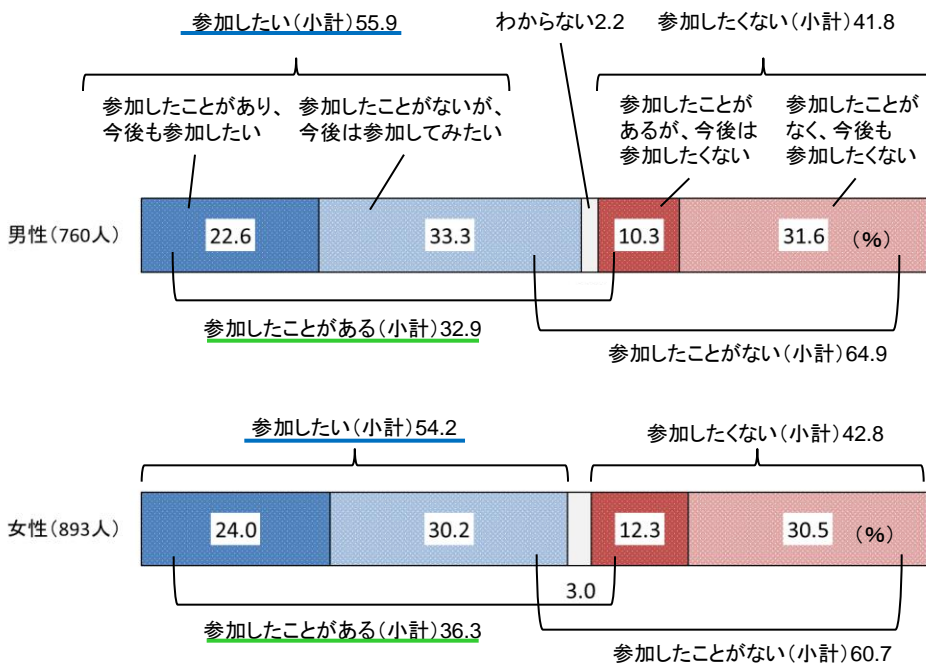
※回答割合が低かったものなど、一部の選択肢の結果は省略している。

2. 学校と地域との連携・協働

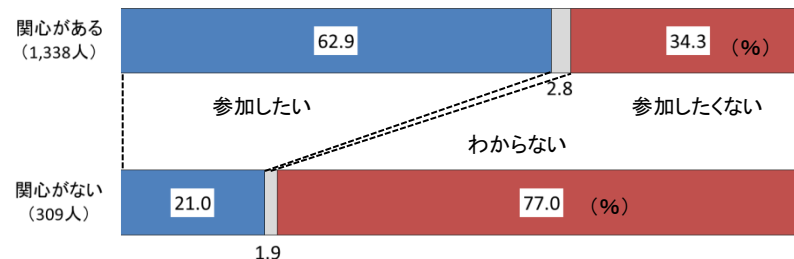
- 地域にある学校を支援する活動に参加したいか(問2)について、
 - ・実際に参加したことがある人の割合は、女性の方が若干高いが、今後参加したいと回答した人の割合は、男性の方が若干高い。【2-1】
 - ・教育についてのニュース・話題に関心がある人の方が、学校支援活動に参加したいと考える割合が高い。【2-2】
- 学校を支援する活動に参加しやすくするための環境整備(問3)について、過去に参加した経験のある人とない人とで比較すると、
 - ・参加経験のある人は、「地域住民等と協力して積極的な広報や勧誘を行う」こと、「活動の参加に要した経費への支援を行う」ことを挙げる人の割合が、
 - ・参加した経験のない人は、「土日祝日にも参加できる活動を行う」ことを挙げる人の割合が比較的高い。【2-3】

【2-1】学校を支援する活動への参加の意向

(男女別)



【2-2】学校を支援する活動への参加の意向
(教育についてのニュース・話題への関心別)



【2-3】学校を支援する活動に参加しやすくするための環境整備

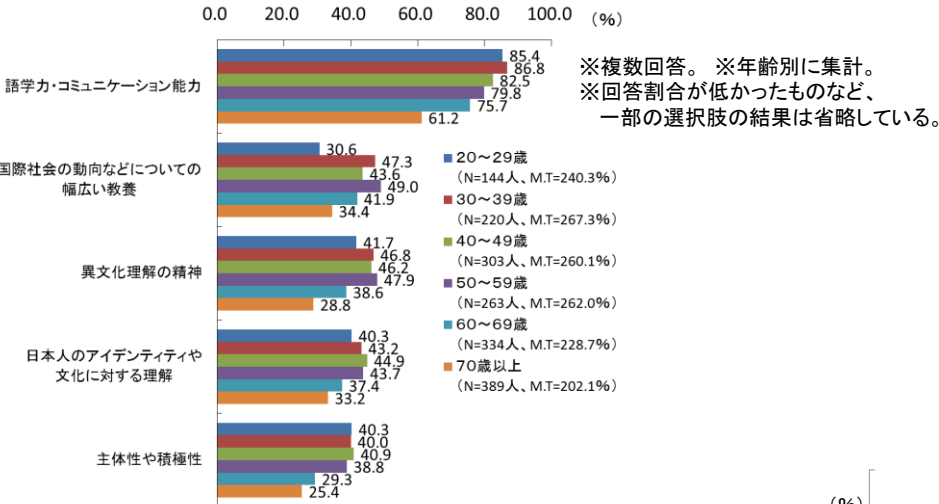
	地域住民等と協力した積極的な広報や勧誘	土日祝日にも参加できる活動	事前説明会や研修会などの定期的な開催	活動の参加に要した経費への支援	参加したことに對しての何らかの公的な評価
参加したことがあり、今後も参加したい	58.5	42.5	35.8	33.2	17.9
参加したことがないが、今後は参加してみたい	49.9	44.2	35.2	25.0	14.9
参加したことがあるが、今後は参加したくない	35.6	26.1	19.7	23.4	20.2
参加したことがなく、今後も参加したくない	24.6	26.6	16.8	13.9	10.5

※複数回答。問3の結果を、学校を支援する活動への参加の意向別に集計。

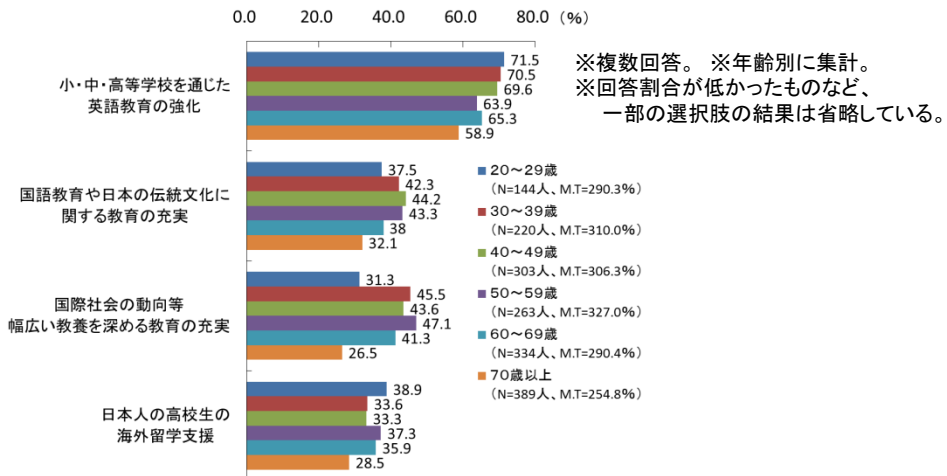
3. グローバル人材の育成

- グローバル人材を育成するために必要な能力(問5)、必要な取組(問6)については、
 - ・「語学力・コミュニケーション能力」「英語教育の強化」を挙げる人の割合がいずれの年代でも最も高いが、若年層ほど重視する傾向が見られる。
 - ・一方、30～50代では、「国際社会の動向などについての幅広い教養」「異文化理解の精神」「日本人のアイデンティティや文化に対する理解」と、そのための取組を挙げる人の割合が比較的高い傾向もみられる。【3-1】【3-2】
- 子供や若者に留学させた方がよい(問7)、と回答した人は8割を超えるが、中でも、20代よりも30代以上の方が、割合が高い。【3-3】

【3-1】グローバル人材を育成していくために伸ばしていくべき能力(年齢別)

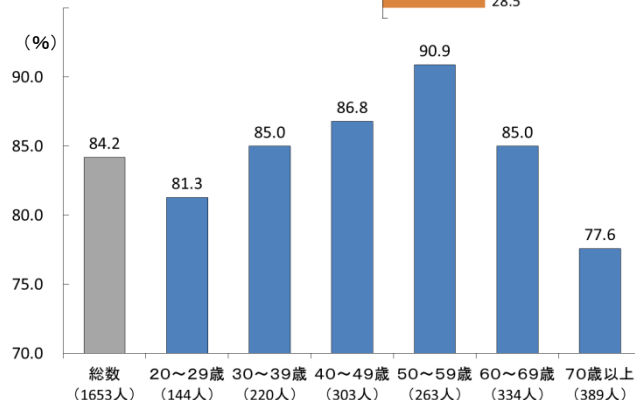


【3-2】グローバル人材を育成していくための取組(年齢別)



【3-3】子供や若者に海外留学をさせることについての意識(年齢別)

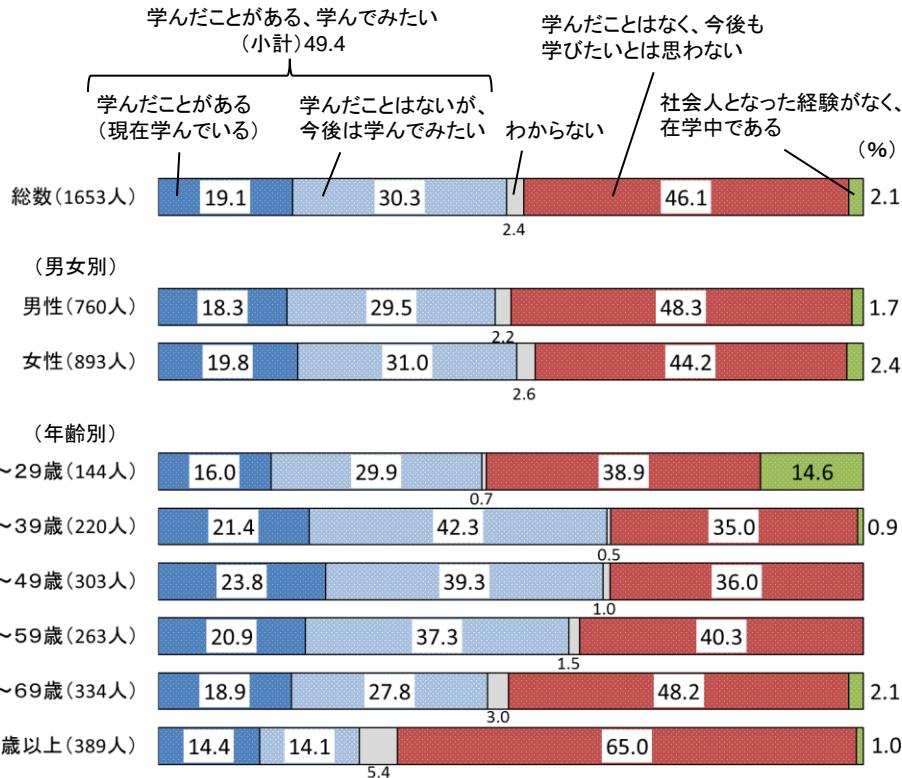
「未来を担う子供や若者に海外留学をさせた方がよいと思う」と回答した人の割合



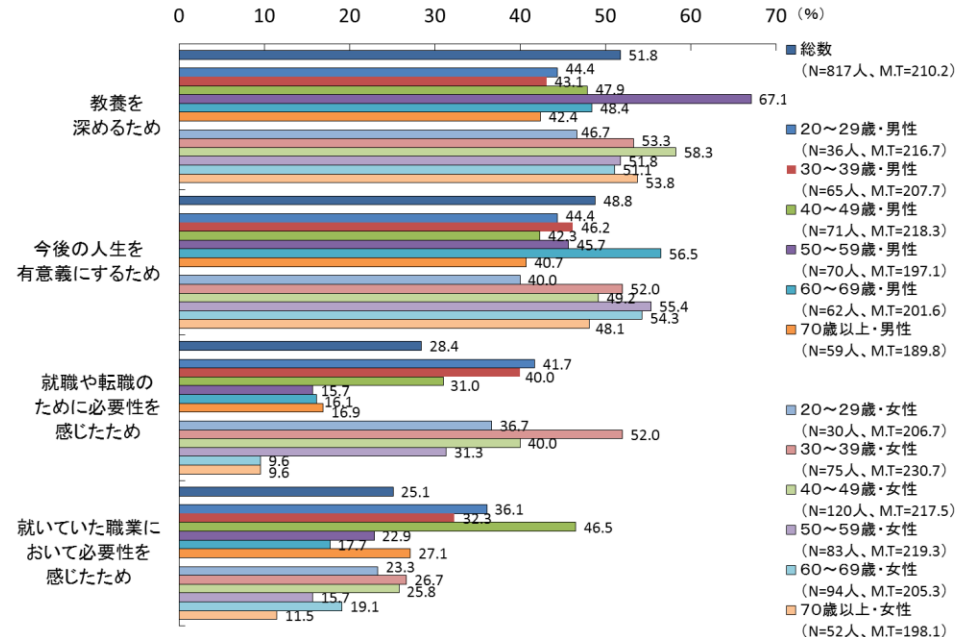
4. 社会人の「学び直し」

- 大学や専門学校などでの「学び直し」について、これまで学んだことがある人及び今後学んでみたい人(問9)の合計は、年代別では30～50代が、男女別では女性の方が、比較的高い。【4-1】
- また、「学び直し」の理由(問9更問)については、全体としては「教養を深めるため」「今後の人生を有意義にするため」と回答した人が多いが、20代・30代の男性と、20～40代の女性では、「就職や転職のために必要性を感じたため」と回答した人が比較的多い。【4-2】
- 機会があれば再び学びたい分野(問8)については、
 - ・20代・30代では「外国語」「法律・政治・経済・国際関係」、40代では、「外国語」「日本や世界の歴史・地理」、50代では「医療・福祉」「外国語」、60代では「日本や世界の歴史・地理」「医療・福祉」、70代では「健康・スポーツ」「日本や世界の歴史・地理」と回答した人が上位を占める。【4-3】

【4-1】学び直しの実施状況(男女別、年齢別)



【4-2】学び直したいと考えた理由(男女・年齢別)



※問9更問では、問9で「学んだことがある(現在学んでいる)」
 「学んだことはないが、今後は学んでみたい」と答えた者に、複数回答。
 ※問9更問の結果を、男女・年齢別に集計。
 ※回答割合が低かったものなど、一部の選択肢の結果は省略している。

【4-1】学び直したい学習の内容（年齢別）

	外国語に関すること	医療や福祉（保育，介護など）に関すること	日本や世界の歴史・地理に関すること	法律や政治，経済，国際関係に関すること	芸術文化（音楽，美術など）に関すること	健康やスポーツに関すること	日本語による実用的な文章表現等に関すること	心理学に関すること
総数 (N=1653人、 M.T=305.4%)	31.3	27.0	26.6	23.0	22.3	21.5	20.6	18.6
20～29歳 (N=144人、 M.T=383.3%)	45.8	27.8	26.4	36.1	31.3	19.4	34.0	30.6
30～39歳 (N=220人、 M.T=389.1%)	48.6	33.6	30.9	35.0	20.9	17.7	31.4	26.8
40～49歳 (N=303人、 M.T=342.6%)	43.9	29.4	32.0	30.4	23.1	19.5	26.1	28.1
50～59歳 (N=263人、 M.T=335.7%)	34.2	35.7	27.8	19.8	27.0	27.4	20.2	21.3
60～69歳 (N=334人、 M.T=264.7%)	21.9	24.9	27.2	14.4	21.9	22.2	16.2	13.2
70歳以上 (N=389人、 M.T=214.7%)	12.6	17.2	18.5	15.2	16.5	21.3	9.5	4.9

※複数回答。

※問8の結果を、年齢別に集計。

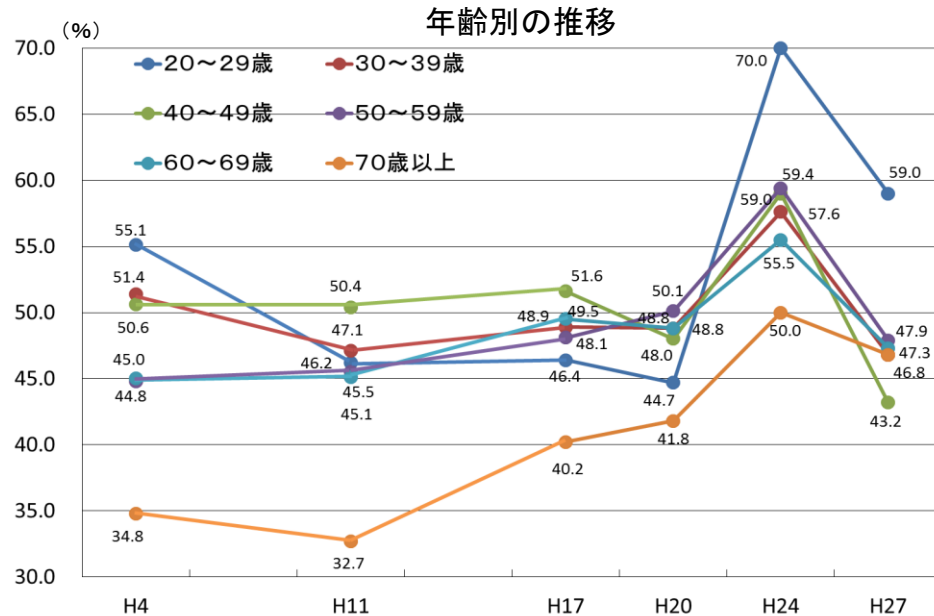
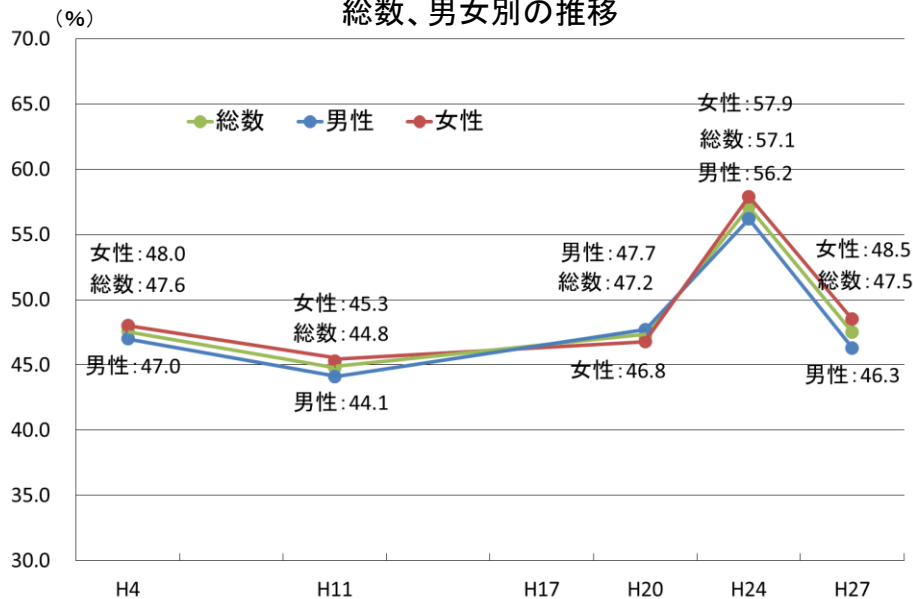
※回答割合が低かったものなど、一部の選択肢の結果は省略している。

※各年齢で、一番多い項目を赤色、二番目に多い項目を青色、三番目に多い項目を緑色で囲んでいる。

5. 生涯学習

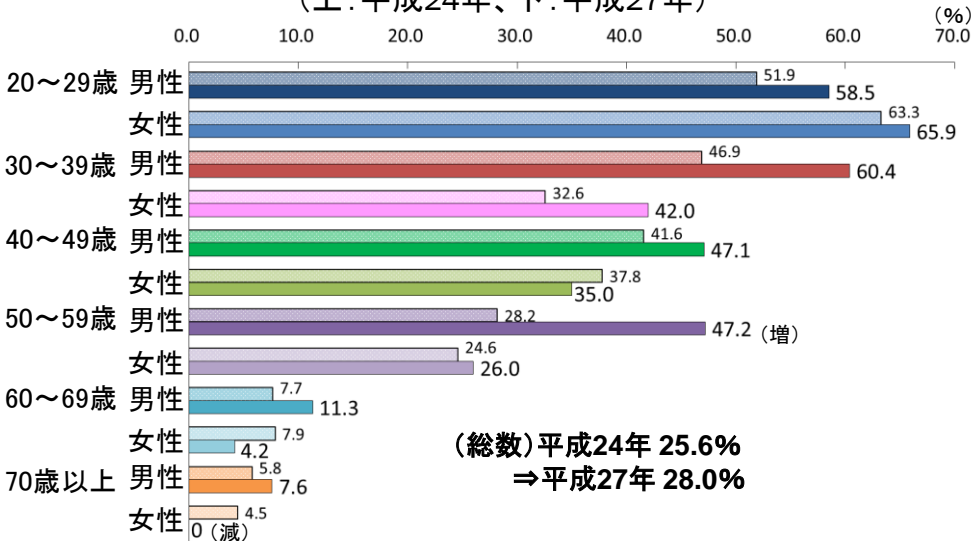
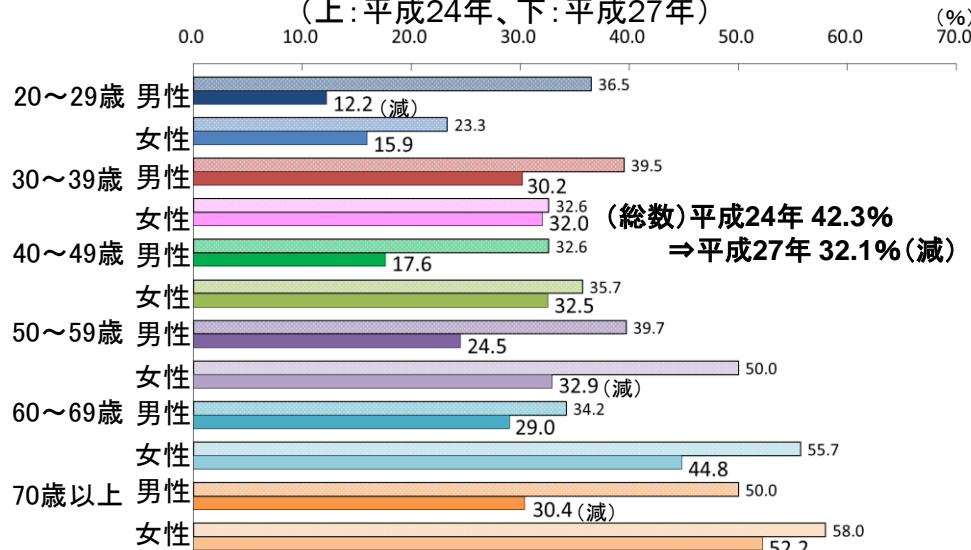
- この1年間に生涯学習をしたことがある人の割合(問11)は、平成4年から概ね横ばいで推移しており、年齢別では70歳以上で増加傾向が見られる。ただし、前回調査(平成24年)との比較では、男女別・年代別で見ても低下している。【5-1】
- 生涯学習をした理由(問11更問1)については、親睦や自由時間の活用などを回答した人の割合は前回調査よりも低下しており、概ね、男女を問わず全ての年代でその傾向が見られる。一方、「現在の仕事や将来の就職・転職などに役立つため」と回答した人の割合は、全ての年代の男性及び20代、30代、50代の女性で、前回調査(平成24年)の数値を上回っている。【5-2】

【5-1】この1年間の生涯学習の実施状況(男女別、年齢別の平成4年～平成27年の推移)

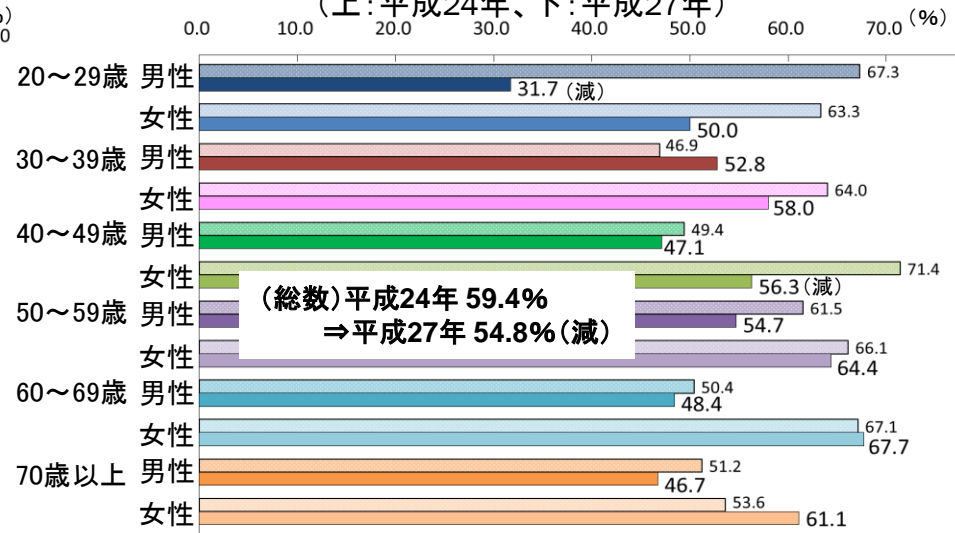
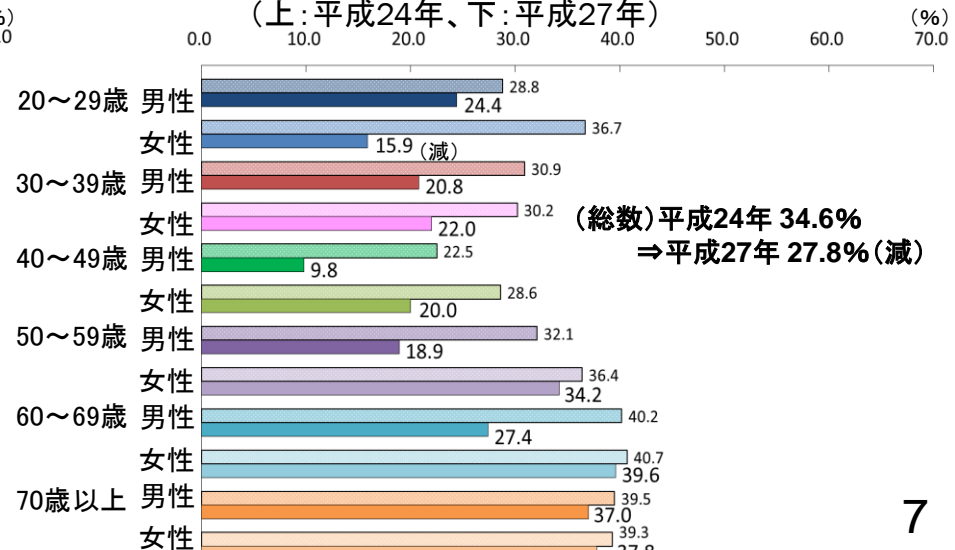


※「生涯学習に関する世論調査(平成17年5月)」の調査対象は、15歳以上の者であるため、総数と男女別の数字は比較の対象とはならない。
 (資料)各年度の「生涯学習に関する世論調査」

(資料)各年度の「生涯学習に関する世論調査」

【5-2】生涯学習をしている理由(男女・年齢別の平成24年と27年の比較)
●現在の仕事や将来の就職・転職などに役立てるため
 (上:平成24年、下:平成27年)

●他の人との親睦を深めたり、友人を得たりするため
 (上:平成24年、下:平成27年)


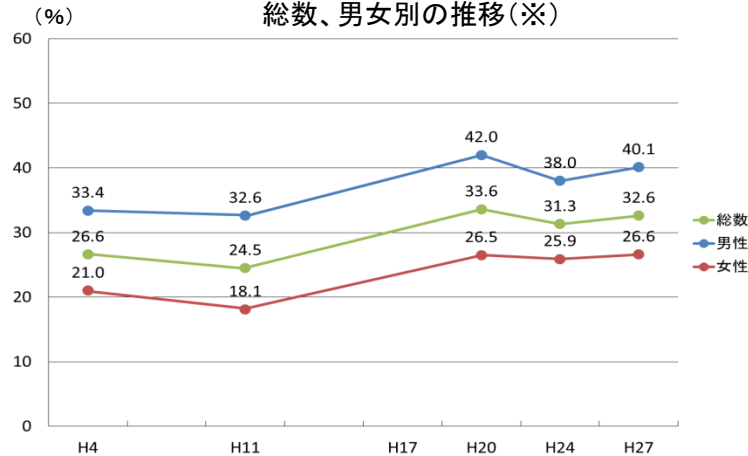
※問11更問1では、問11で「生涯学習をしたことがある(小計)」とする者に、複数回答。
 ※問11更問1の結果を、男女・年齢別に集計。
 ※前回調査(平成24年)結果との比較において、統計学的に有意差(信頼度95%)が認められる場合については、「(増)」または「(減)」と記載している。

●その学習が好きであったり、人生を豊かにしたりするため
 (上:平成24年、下:平成27年)

●自由時間を有効に活用するため
 (上:平成24年、下:平成27年)


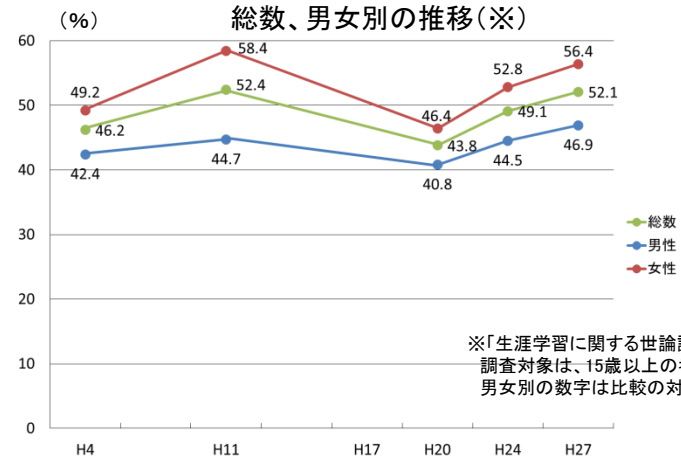
- 生涯学習を通じて身につけた知識等を「仕事や就職の上で生かしている」と回答した人の割合(問11更問3)は、平成4年からの推移を見ると増加傾向であり、年齢別でも、20～50代で同様の傾向が見られる。
- 生涯学習を通じて身につけた知識等により「自分の人生がより豊かになっている」と回答した人の割合(問11更問3)は、30代及び50代以上で、前回調査(平成24年)の数値を上回っている。【5-3】

【5-3】身につけた知識等の活用状況(男女別、年齢別の平成4年～平成27年の推移)

「仕事や就職の上で生かしている」と回答した人の割合の推移
総数、男女別の推移(※)

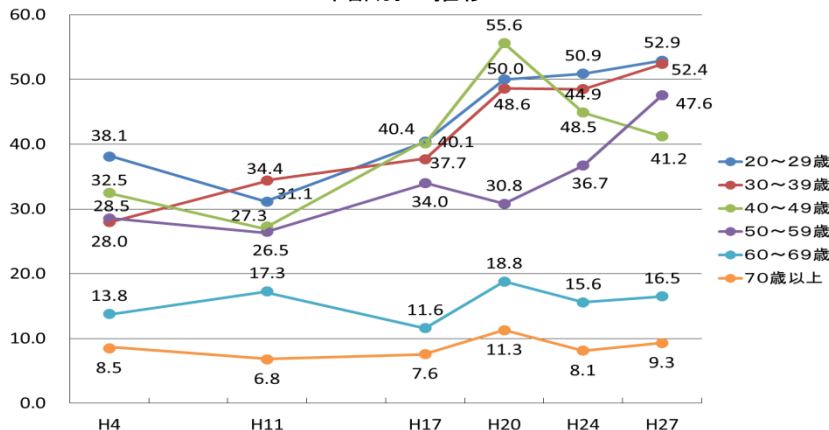


「自分の人生がより豊かになっている」と回答した人の割合の推移
総数、男女別の推移(※)



※「生涯学習に関する世論調査(平成17年5月)」の調査対象は、15歳以上の者であるため、総数と男女別の数字は比較の対象とはならない。

年齢別の推移



年齢別の推移

